

平成 22 年度 事業報告書

大慈デイサービスセンター

1. <<法人ヴィジョン>>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. <<基本方針>>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、要援護の高齢者がより自律的な生活を可能な限り自立して安らかに営むこと、社会的孤立感を解消すること、心身機能の維持、向上を図ることを目的として高齢者自身を援助することの他、介護する家族の身体的・精神的負担を軽減できるよう努力し、在宅での介護が中心となるデイサービスの利用者に対し、ケガ・事故の無い様に細心の注意を払い、より良い環境でのサービスを提供していく。

3. <<ケア部門>>

●最終目標 『ADL が向上するデイサービスの構築を目指す』

●中期計画

○平成 21 年度(1 年目)

「課題の抽出及び検討」

- ・体制確立の為、ゲスト個々のニーズ、課題を抽出し検討。

○平成 22 年度(2 年目)

「実施・検討・評価」

- ・課題に対し対策を実施、検討、評価を行なう。

○平成 23 年度(3 年目)

「システムの完成」

- ・検討を重ね、目標へつなげる。

●22 年度重点目標 「実施・検討・評価」

①ADL 向上事業

A) 運動機能向上、栄養改善、口腔機能の向上、このプログラムの実施率 50%

B) 日常活動プログラム

→運動機能向上・栄養改善・口腔機能の向上事業においては口腔機能向上事業のシステム構築を図ろうとしたが、歯科医との調整が難航し未完成のままである。ただ、その様な中で運動機能向上事業の実施率が 40.9%まで上昇できた事は評価できるものとする。又、日常活動プログラムにおいても「お手伝いし隊」とし、今ではゲストから自発的に行って頂ける様になっている。

②プログラム活動の検討・評価

A) プログラム活動のマニュアル作成と評価

B) 個人ボックスの活用(編み物、刺し子等々個別に長期に渡る製作物等の預かり)

C) 園庭でのプログラム活動の構築

→プログラム活動のマニュアル作りにおいてはデイ部会にて評価を行ない、順次マニュアル作成、更新を行なった。ただ、個人ボックス、園庭でのプログラム活動においては思

うような形にはなっておらず、次年度の課題として残った。

③その他の検討事項

A) 課題の抽出(アンケート実施)

B) 記録物の見直し

→デイ検討委員会にてデイサービスから御家族へ発信する場がないとの事で、初めて「家族会」を実施した。色々と問題もあったが、御家族からも好評を得た。記録物においてはソフトが「楽ちゃ〜」から「ほのぼの」へ移行。当初混乱もあったが、入力マニュアルを作成した事により、年配の職員も入力出来る様になった。又、遅れがちな経過報告書も書式を変更した事により、定時事業所へ渡す事が出来る様になった。

4. <経営部門>

<22年度重点目標>

①充足率90%維持及び登録者40名を目指し、経営基盤の安定を図る。

A) 欠席者の理由を割り出し、現状を知る。

B) 皆勤賞授与等で継続して利用していただくよう意欲増進を図る。

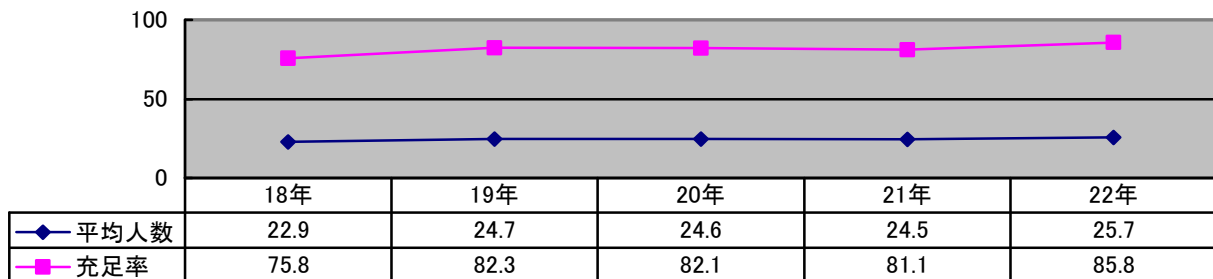
C) 総務部と共に経営分析を長期・中期的に行い健全な経営を維持する。

D) 居宅・あんすこ・吉祥園の協力のもと、営業に出向き新規利用者獲得する。

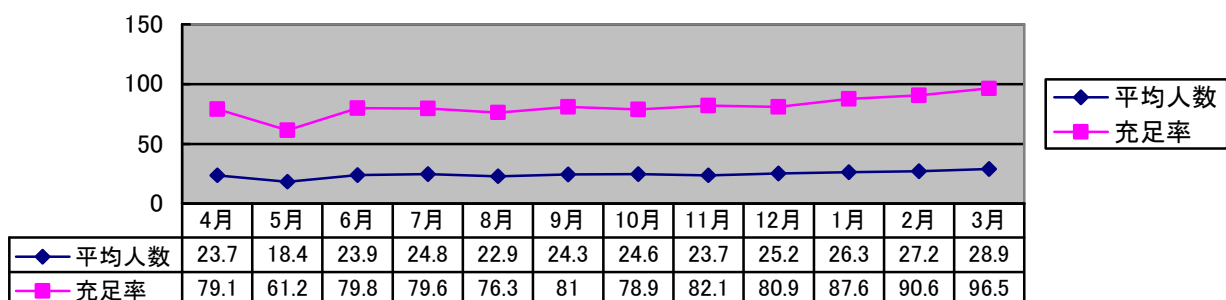
E) 毎月居宅等の事業所への営業活動を行う。

→年度開始当初は充足率が95.3%であった。曜日によっては待機者が居る状況であった為、新規ゲストの問合せがあっても受け入れることが出来なかった。その為か、徐々に低下してゆき一時期は79.5%まで下降。昨年度から前月の実績を持って1回/月営業活動を行っていたが、今年度の後半からは経過報告書を持参しての営業活動を取り入れ、2回/月事業所へ赴き回復を図った。しかし、年度末時点で82.0%、年平均85.8%と目標達成には及ばず、近隣に大型施設の開設を控えていた事もあり、大きな回復は見られなかった。

年度別推移



22年度月別推移



5. <理学療法科>

<年間計画内容>

ゲストのADLレベルの状態を観察すると同時に、リハビリが必要であると判断すれば、そのゲストの状態に適合したリハビリ項目を計画・提供・施行する事を担っている。また、必要とされないゲストに対しても様子・状態観察を施行する。その際、順次現場への対応策も報告し二次的・三次的リスクを未然に回避する役割も同時に担う。

<実践目標>

①個別機能訓練者への適切な（在宅生活に基づく）プログラムの作成・随時

→個別機能訓練を今年度より本格的に実施し、着実に推移を伸ばす事が出来たと思われる。個々の在宅での生活スタイル・環境等を聞き取り、そのスタイルに順応したプログラムを作成する上で、生活スタイルに適した作成・実施を図った。離脱者は病欠（長期化）・他界・他施設への入所等の理由の他は無く、オーバーワークによる離脱等は0件であった。現状を維持していく事はもちろん、現場主任との連携を図り今後も対象者を増やすと共に、より良いサービスの考案に努力していく。

<まとめ>

個別機能訓練に関して、年間総数が大幅に増えている。内容としては現状機能を維持する事を第一にプログラムの作成をし、その上で在宅環境等に適した（順応した）項目を取り入れていく事で、生活レベルの向上・維持を図った。離脱者が殆ど無く円滑に遂行する事ができ、増加傾向で今年度を終える事が出来た。

今後は緩和治療等を取り入れ、違う方向からの充実したサービスを提供する事で推移を伸ばして行きたいと考えている。

6. <栄養科>

<実践目標>

①ゲストから多くの「おいしい」の言葉を聞くことができる。

A) 調理給食会議での献立確認の際は、盛り付けがよく見える方法を検討する

B) おやつ作りは季節感を考慮し、楽しく感じる作業内容を計画実施する

C) 『職員・利用者アンケート』の満足度を100%にする。

→行事食については年間をとおして、食器や盛り付けについても好評であった。見た目の改善をするため和風のトレーに寄せ換えての配膳や陶器の急須を使用した。アンケート結果は満足度が10%減少しており、普段の食事内容で今後も改善努力が必要である。

②新体制にむけてタイムテーブルを新しく作る。

A) 月1回委託業者と会議を行い、一年で作成する

B) ケアハウス栄養科と連携して業務の効率化を図る。計画案作成にあたり試験的に実施する際は関連業者・部署の理解、協力を得る。

→新体制のタイムテーブルは7月から実施し、一部修正しながら現在まで大きな問題はない。急な人事異動や個別能力も考慮して、契約人数以上の配置ではあるが、委託業者から了解を得て問題なく業務は行えている。ケアハウス栄養科との連携は問題なくできているが、委託業者の人員配置については、今後も継続した話し合いは必要である。厨房改造については当初の計画より変更があり、将来館内はオール電化になる方向となった為、設計から練り直し始めた所である

<月間行事>

おやつ作りについては月3回実施していたが、年度中盤から14時からおやつ作りへの介護士の配置が難しくなり中断していた。計画変更し2月に実施時間を変更し昼食作りを実施し、来年度も昼食時間に実施することとなった。他月間行事は計画通り実施した

<年間行事食>

※略語の説明→D（デイサービス）

月	行事	内容
4月	お花見	お花見弁当。館内でお花見弁当2パターンのメニューで提供した。
5月	子供の日	巻き寿司をメインに特別食を提供した。
	母の日	特別食を提供した。
6月	父の日	特別食を提供した。
7月	七夕	特別食を提供した。
8月	地蔵盆	地域交流の一環にて、園庭で職員が地域の方を接客し露店を実施した。
9月	敬老の日	特別食を提供した。
10月	秋祭り	園庭で昼食後に露店販売を行った。
12月	クリスマス会	3日毎に別メニューで一週間クリスマスらしい特別食を提供した。
1月	元旦	正月料理とした。
	餅つき	間食でもちつきを実施し、参加者にその場で提供した。
	新年会	特別食を提供した。
2月	節分	昼食は巻きずし、夕食は鰯をメインにした特別食を提供した。
3月	ひな祭り	菱寿司をメインに、雛あられを添えて提供した。

7. 《看護部》

＜実践目標＞

①バイタルチェック

A) 利用時検温、脈拍、血圧測定を行い体調の確認を行う。

B) 入浴時の観察を行う。

→バイタルチェックで変化しやすいゲストの体調確認を行う事が出来た。又、入浴時には身体確認を行う事ができた。

8. 《会議の実施内容・反省点》

①デイ検討委員会

→施設長、居宅ケアマネージャー、施設ケアマネージャー、栄養士、相談員、介護職員でデイサービスのサービスにおいて検討を行っている。今年度はデイサービスから御家族への発信の場がない事を課題として抽出し「家族会」の実施へ繋げる事が出来た。

②デイ部会

→独自で直面している様々な問題点の改善策、行事の検討等を行っている。今年度も事業計画の進捗状況と問題点を中心に話し合いを行ない目標達成へ向け取り組んだ。

③施設内カンファレンス

→ゲストの介護方法の統一を図る事と現状の問題点等を改善する事を目的に行っている。前年度から始めた事もあり、職員も要領が掴めてきたこともあり短時間で言う事が出来る様になった。

9. 《会議の実施内容・反省点》

10. 《職員会議・OFF-JT》

} 弥勒園同様

11. 《年間行事》

月	年間行事	毎月定例行事
4	お花見・風船バレー・的またぎ・新聞紙を使って遊びましょう・射的	誕生会
5	母の日会・端午の節句皿転がし・ピンポンコロコロ・おいでおいでゲーム	理髪サービス リハビリ体操
6	父の日会・買物ツアー・ジェスチャーゲーム・洗濯ばさみゲーム シャッフルゲート	
7	七夕祭り・缶ユニカールゲーム・風船バレー・ビーチボールサッカー 手ぬぐい取りゲーム・風船バレー	
8	夏祭り・制作・ビー玉出しゲーム・ピンポンコロコロ	
9	敬老会・買物ツアー・広告で作りましょう・言葉遊び・いくつ出るかな	
10	秋の遠足・秋の運動会・伝えた通りに書きましょう・あれは何・輪投げ 缶ユニカールゲーム	
11	喫茶店へ行こう・演芸週間・バウンドゲーム・焼き芋ホイ・シャッフル ゲート	
12	買物ツアー・クリスマス会・牛乳パックで作ろう・落とさないで巻き ましょう・ボール遊び・ジャンケン塗り絵・お正月って何がある	
1	初詣・家族会・カルタ遊び・福笑い・新春輪投げ・箸出しゲーム カード遊び・園芸・詰め放題ゲーム	
2	節分・数字でジャンケン・昼食を作ろう・皿転がし・風船バレー・園芸	
3	ひな祭り・買物ツアー・詰め放題ゲーム・サイコロ出たもの勝ち 缶ユニカールゲーム・缶積みゲーム・園芸	

12. 《行事の実施内容・反省点》

①お花見

→ドライブと言う形で実施。歩かなくても良い事から事前アンケートもなく当日の希望で参加出来る事もあり、総勢132名と多くの参加者を得ることができた。期間中は桜も満開であり日程設定においても上手く行き好評を得た。

②母の日会

→カーネーションをプレゼントし、お母様の思い出を御話して頂いた。前年度の反省から午前レクとして、皆で円形になって実施した事で雰囲気も良く楽しんで頂く事ができた。

③父の日会

→靴下をプレゼントし、お父様の思い出をお話いただいた。午後レクとして実施したのだが、曜日によってはあまり時間が取れずバタバタとした感じがあった事は反省として残った。

④七夕祭り

→飾りつけた笹をバックに記念撮影を行う事が主となる行事であったが、行事としての楽しみが薄い事から、今回は職員による大正琴の演奏を目玉とした。顔見知りの職員が催しを行う事でゲストの反応も良く楽しんで頂けた。

⑥夏祭り

→今回は「ヨーヨー釣り」「宝探し」「輪投げでゲット」「宝つり」の出店を作り行った。前年度の反省から週の前後半で出店を変更するなど、マンネリ化を解消した事や景品を日用品とした事は好評であった。

⑥敬老会

→各曜日にボランティアによる「フラダンス」「大正琴」「三味線」等を披露してもらった。前回の反省から職員が司会進行を行い盛り上げる事で雰囲気もよく、楽しんで頂けた。

⑦秋の運動会

→今回は「パン食い競争」「玉入れ」「風船割り」の3つの競技で行なった。初めての「風船割り」も好評であったが、どの競技においても少し時間が余ってしまい、次年度の課題として残った。

⑧遠足(新開地劇場)

→ゲスト14名、職員4名、ボランティア4名にて新開地劇場へ出掛け、大衆演劇を楽しんだ。遠足としては初めての場所ではあったが「楽しかった」「母が喜んでいました」等の声が聞かれ、好評であった。

⑨遠足(花鳥園)

→ゲスト10名、職員8名、ボランティア2名参加。可憐な花に囲まれる中、鳥との触れ合いを楽しんだ。普段は表情の乏しい御利用者も鳥とのふれあいの際に、笑みが零れていたのが印象的であった。

⑩遠足(三木山森林公園)

→ゲスト21名、職員15名、ボランティア6名にて三木山森林公園のバイキングを楽しんだ。昨年より、遠足に参加しても入浴頂ける参加場所として設定した事で、遠足への参加が難しい方も参加でき、好評を博した。

⑪喫茶店へ行こう

→喫茶店へ行き美味しいお茶とケーキを食べようと述べ33名のゲストと「リッチフィールド」へ訪れた。初めての企画であったが、大きな事故もなく、好評を得る事が出来た。

⑫演芸週間

→11月に大きな行事がない事から職員が何か出し物をして楽しんで頂こうと「職員紅白歌合戦」を実施。色々な衣装を身に纏った職員の歌に、御利用者の笑いが耐えない一週間となった。

⑬クリスマス会

→ボランティアによる「ギター」「大正琴」「マジック」「銭太鼓」等を披露してもらった。今回、無償(交通費支給なし)と言う条件であったにも関わらず御協力いただいた事に感謝したい。

⑭初詣

→7~9名/日のゲストと諏訪神社へ参拝に出かけた。前年度より導入した2班性、ボランティアの協力もあり、マンツーマン対応にて実施。普段外出ができない方は大変喜ばれた。

⑮餅つき大会

→例年、餅をこねることを女性ゲストにお願いしていたが、今年度は、つき手となってお餅をつかれた方、返し手を務めたゲストも現れ、例年になくゲスト参加型の行事として楽しんで頂くことができた。

⑯家族会

→検討委員会にてデイサービスから発信する場を持つべきとの事で、とにかく大慈デイサービスを知ってもらうことを目標とし開催。行事写真のスライドショーを見て頂き、デイサービスでの一日の流れ、デイサービスでのリハビリ等をお話させて頂いた。当初計画では御家族との交流も兼ねて茶話会を組み込んでいたが、時間配分が上手く行かずに茶話会を中止しバタバタと終了した事は反省として残った。

⑰お昼ごはんを作ろう

→日常生活で行なう事柄をレクリエーションとして取り入れ、認知症の進行を緩やかにしよう

と、ゲスト自ら昼食のカレー、クリームシチュー、すいとん汁を調理して頂いた。「長いことやっていないから」と話しつつも慣れた手つきで作業されるゲストの姿が印象的であった。

⑭買物ツアー

→6・9・12月と実施。ゆっくりと商品を見て吟味される方や買い物はせず喫茶店にて思いの物を注文し楽しまれる方等、それぞれ思い思いに行動される姿が見られた。今年度はボランティアの要請を行い実施したが、ボランティアへ説明等の不足もあり、転倒されたゲストが出た事は反省として残った。

⑮お誕生会

→お誕生日のプレゼントとして今年度は保健証入れをお渡した。又、「お誕生日お願い事叶えます」として、職員がマンツーマンにて対応し、お願い事を実施するという企画において、お願い事をスムーズに聞く事が出来る様になり、色々なお願い事を叶える事ができた。

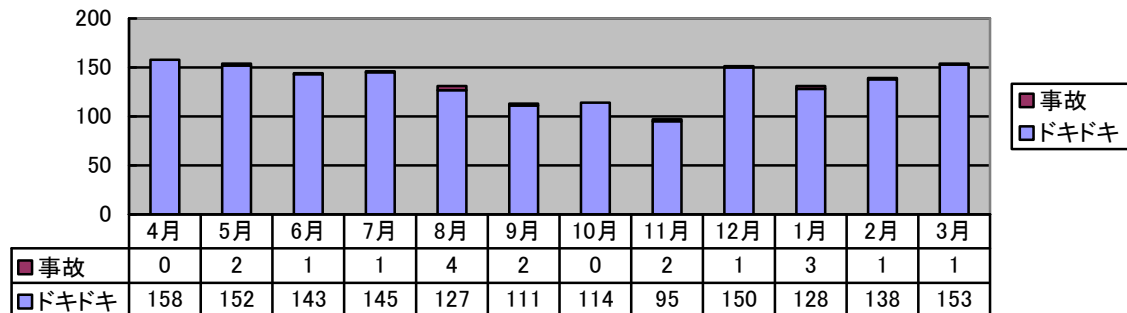
13. 《リスクマネジメント報告》

①報告件数・・・1632件（事故18件、ドキドキ1614件）

前年度1657件（事故15件、ドキドキ1642件）

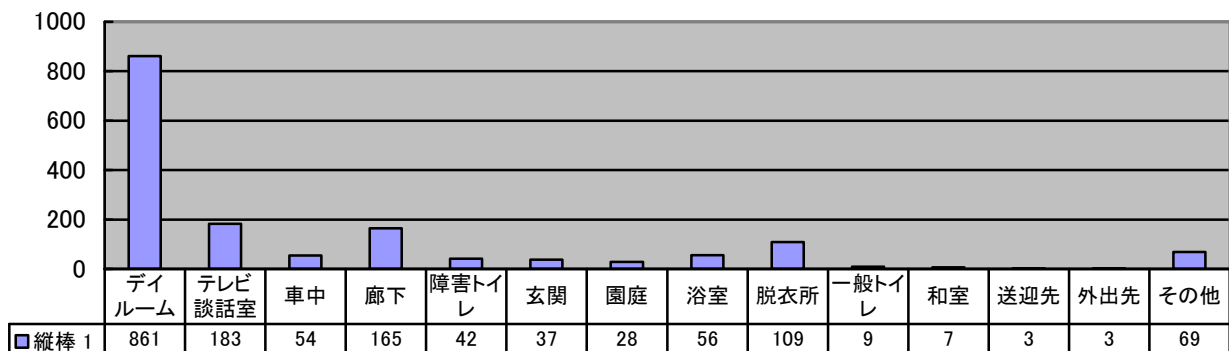
→ドキドキ報告が5月より減少11月には100件を切る状況となっている。これは、職員別に報告件数を発表し報告の意識付けを行なっていたが、PCソフトの変更により、その様な集計ができなかった事に起因する。ソフトの活用を検討し12月より発表を行った所、急激に報告件数が増加した

<事故ドキドキ件数>



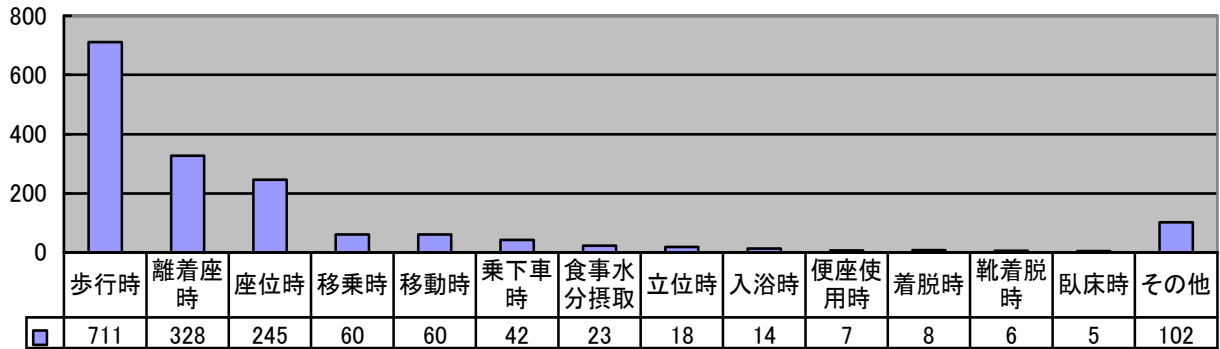
②発生場所別件数

→ダイルームが861件と一番多く、テレビ談話室、トイレ前廊下と続く。ゲストが多い時間を過ごす場所が最も報告が多く、次いで移動を伴う場所の報告が多い形となっている。



③発生状況別件数

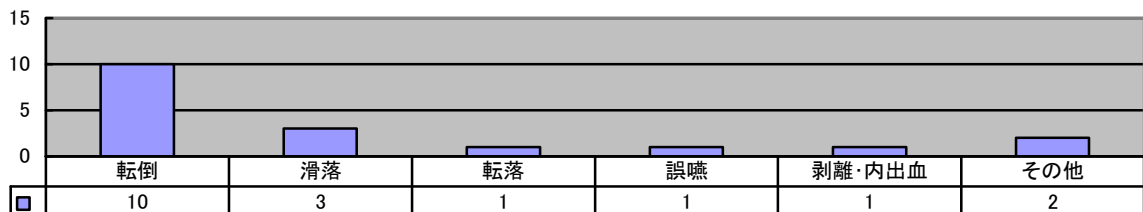
→歩行時が711件と一番多く、次いで離着座時、座位時と続く。座位時においては押し車に座る等の行為から報告があがっている。



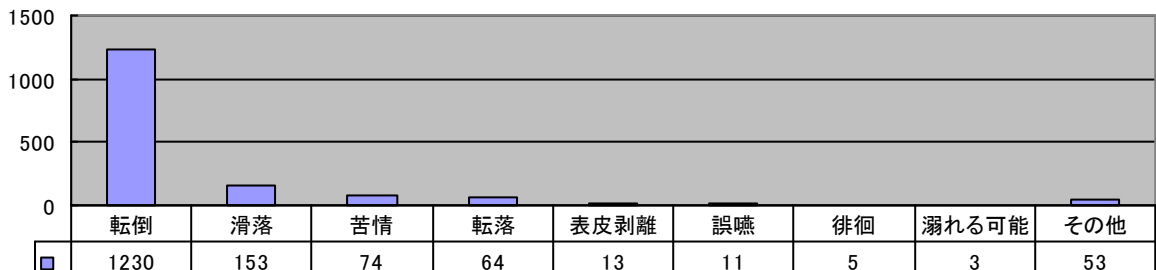
④発生内容別件数

→事故において歩行時の転倒が10件と一番多く見られる。それに伴って、ドキドキでは転倒の恐れが1230件と他の項目より群を抜いて多くなっている。

<事故内容>

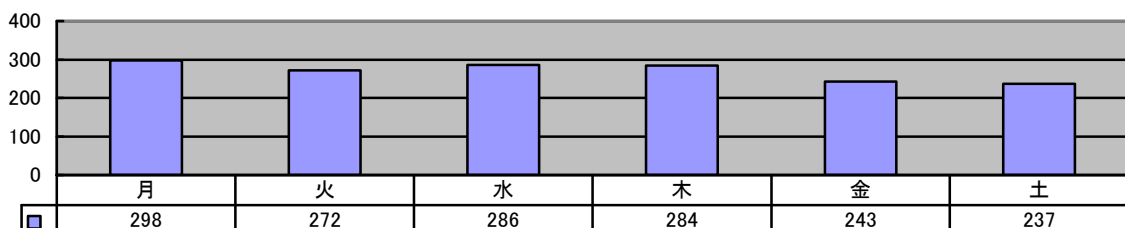


<ドキドキ内容>



⑤曜日別件数

→曜日別で行なう業務に違いはない。



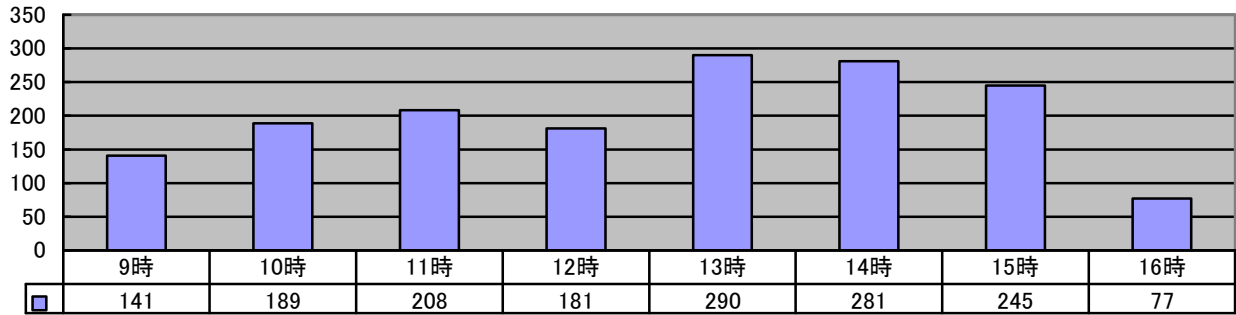
⑥時間帯別件数

→ドキドキにおいては13時から14時に掛けて多い。これは入浴を実施している時間帯であり、デイルームで業務を行う職員が一番少ない時間帯である事からと考える。又、15時においては午後レクの移動、帰宅準備による移動等がある事からと考える。

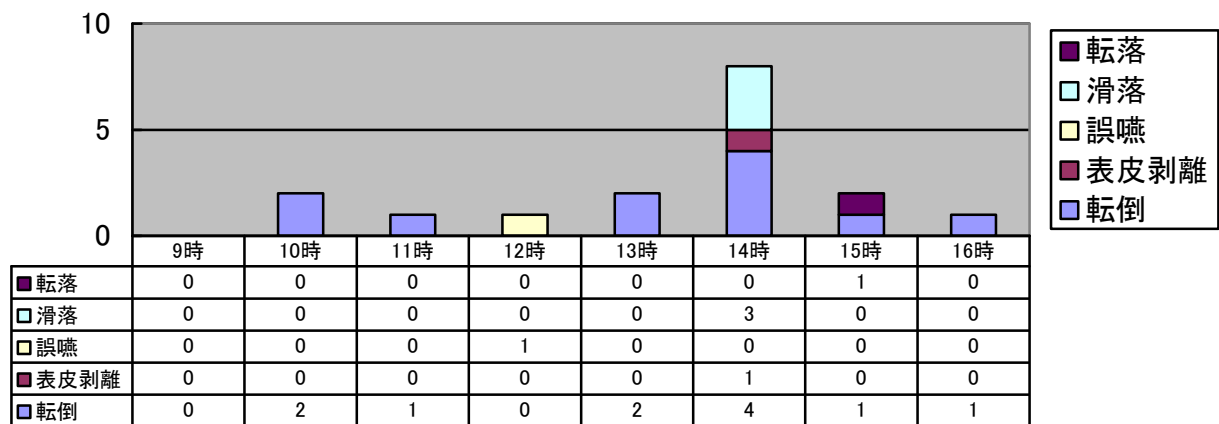
→事故においても、13～15時の発生件数が多い。しかし、ドキドキは13時が一番多くなっているが、事故では14時が一番多くなっている。デイルームに居る職員の業務量がピークを

迎えインシデントとして対応しきれず、事故に至っているのではないかと考える。

<ドキドキの時間帯>



<事故の時間帯>



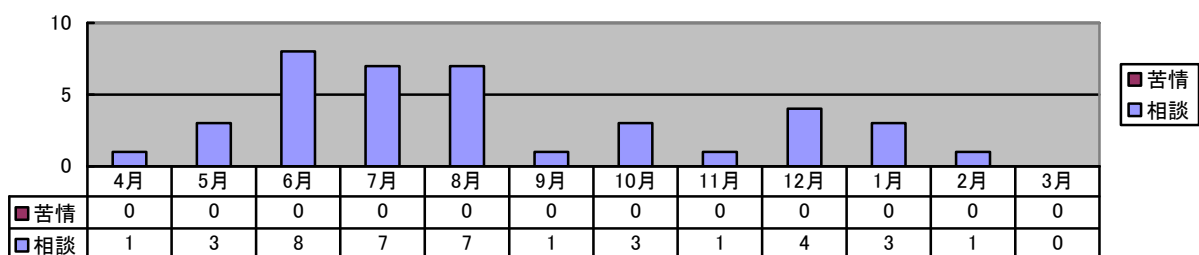
⑦まとめ

→前年度の事故件数が15件、今年度は事故件数が18件と年々件数が増加してきている。しかし、事故が起きた際に事故検討委員会を開催し要因分析、対策の策定といった事が、主任相談員不在時でもスムーズに行えるようになり、対策も機能している事は評価できる。今後、リスクマネジメントとして考えた際に、ドキドキ報告書から予防的に対策を策定するシステムを構築することが課題である。次年度はこの事において取り組み形としたい。

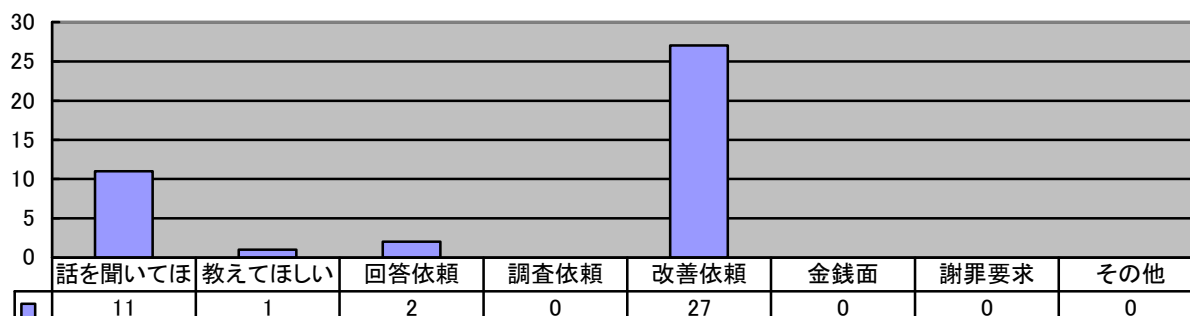
12. <<苦情・相談報告>>

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

①報告件数・・・40件（苦情報告なし）前年度・・・7件（苦情報告なし）



②要望分類



③主な内容

内容	件数
食事について	7
説明不足により	6
職員のミスにより	5
座席について	4
設備について	3
職員の配慮不足により	3
システム的な不備について	2
ゲスト間のトラブルについて	2
職員の対応について	3

④まとめ

→今年度は報告書の提出を確実にを行う様にとの事で件数が増加している。内容として食事に関するものが最も多く7件となっているが、これにおいては、表面的には食事の内容が悪いと取れるが、御利用者1人1人の嗜好による所が大きい。ただ件数から見ると、ゲストはいかに提供される食事において意識が高いか伺える。

14. <総括>

御自宅へ帰ることができる状態を維持する為にとの事で「ADLが向上するデイサービスの構築を目指す」を目的に運動機能向上、栄養改善、口腔機能の向上、この3事業の内1つでも実施している方を全体の50%にする事を目標としたが、運動機能向上事業の実施率が30%から40%まで上昇したものの、栄養改善、口腔機能の向上、この2つについては全く進展せず、再度次年度の課題として残った。しかし、日常活動プログラムにおいては「お手伝いし隊」と名うち、ゲストが自発的に取り組むまでになったことは評価できる。

又、今年度は「喫茶店へ行こう」「お昼ご飯を作ろう」「演芸週間」等、新たな行事作りを行なった事、デイサービスとして初めて「家族会」を実施できたことも評価できると考える。

しかし、充足率において年度開始当初95.3%であったものが、年度終了時には82.0%と13.3ポイントと大幅に低下している。その様な中で次年度は近隣に大型施設の開設を控えており、今後の展望として非常に厳しいものがある。現在までADLの向上するデイサービスをと考えてきたが、ゲスト側から見ればADL向上にはリハビリとなり、デイケアを選択するのではとも感じる。基本的にデイサービスはお預りのサービスとして認識されており、それを踏まえた上で、どの様なニーズがあるのかも含め検討していくことが次年度への課題となっている。